



2023 年 10 月 5 日

各 位

会 社 名 日 本 化 学 産 業 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 柳 澤 英 二
(コード番号 4094 東証スタンダード市場)
問合せ先 執行役員 管理本部 総務部長 百 瀬 譲
(TEL. 03-5246-3540)

新・中期経営計画の策定に関するお知らせ

日本化学産業株式会社は、2030 年度までを見据えた中期経営計画を策定しました。
第一ステージとして、2023 年 10 月から 2026 年 3 月までを対象とした計画を策定いたしましたので、
お知らせいたします。

当社グループは新たに策定した当中期経営計画を達成することで、企業価値向上を図り、全てのステークホルダーから信頼される企業グループとなることを目指してまいります。

記

1. 対象期間

2023 年 10 月～2026 年 3 月（99 期下期から 101 期）

2. 基本方針

金属の独自技術を磨き、新たな価値の創造を続けることで、多様なパートナーとともに、サステナブルな社会の実現に挑戦します。

3. 基本戦略

- (1) 事業基盤の強化
- (2) 成長領域の拡大
- (3) 社会課題の解決

詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

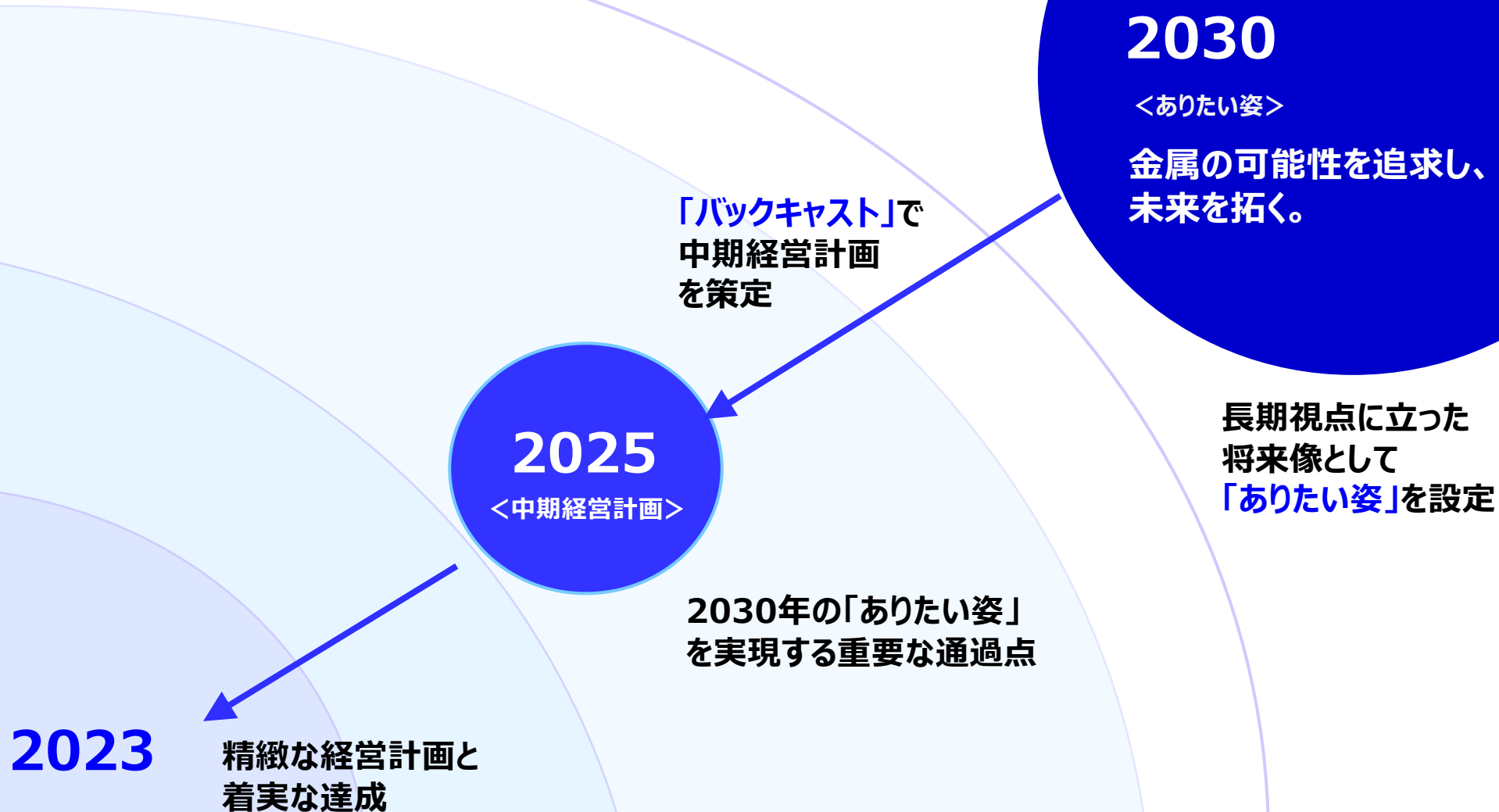
以 上

2023-25 Mid-term Management Plan

日本化学産業株式会社
2023年10月



中期経営計画の位置づけ



金属の可能性を追求し、未来を拓く。

メッセージ

金属の独自技術を磨き、新たな価値の創造を続けることで、
多様なパートナーとともに、サステナブルな社会の実現に挑戦します。

メッセージに 込めた想い

- 社会に欠かせない存在になる
- 強い事業への変革
- 変化に対応する企業風土

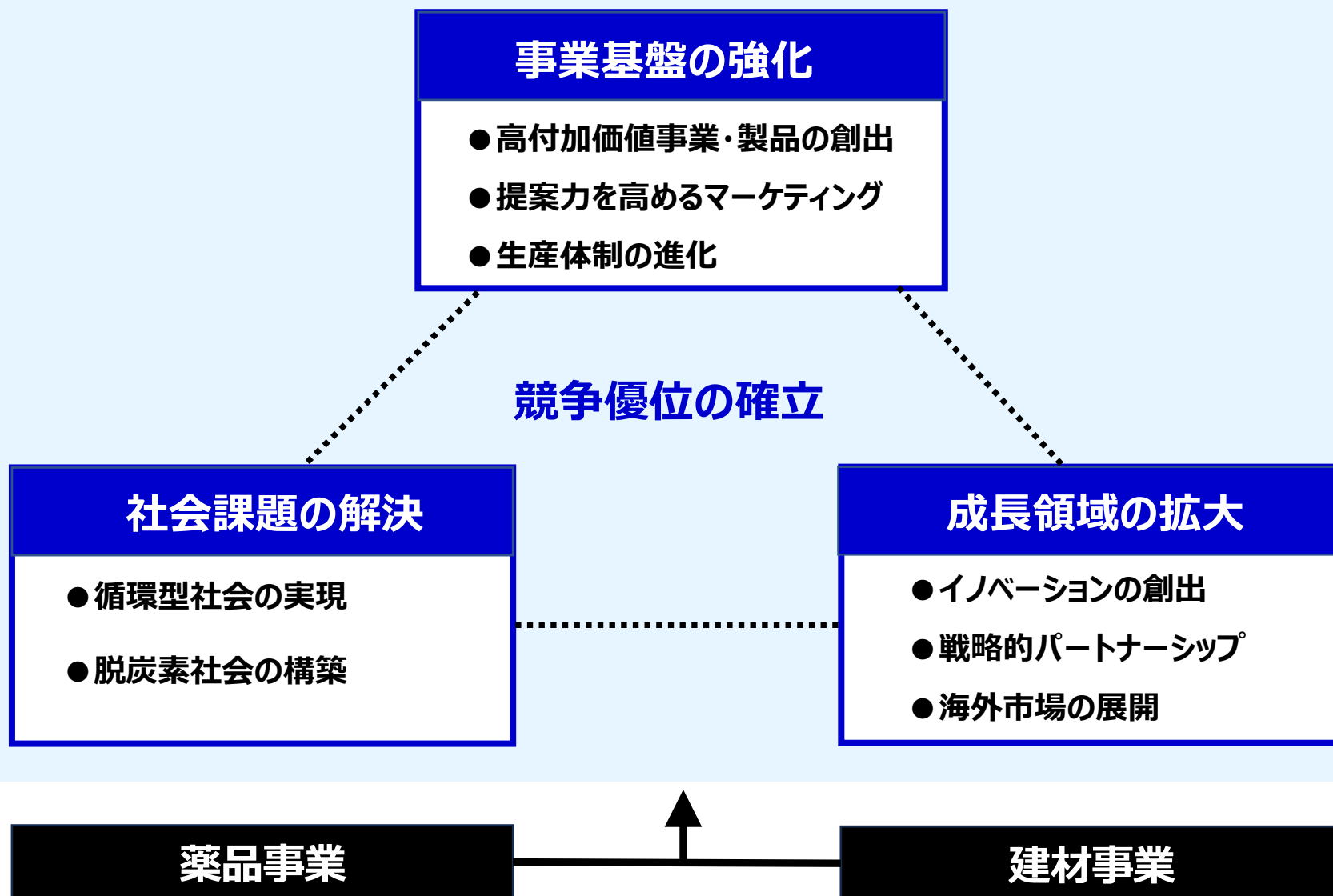
薬品部門



建材部門



基本方針の全体像





ありたい姿

独自技術により、市場に高い付加価値を提供する、**オンリーワンの化学薬品メーカー**となることで、産業界と社会のサステナビリティに貢献します。

当社ならではの強み

- 80有余年にわたって、金属化合物をベースとした、さまざまな化学薬品を提供してきた**実績**。
- あらゆる産業の幅広いニーズに応える薬品を開発・提供してきた、きめ細かい**対応力**。
- 産業界の技術革新に即応し、社会の要請に応える、社会のサステナビリティに貢献する製品を創出する**研究・開発力**。

薬品事業 事業環境認識

環境

事業環境 の質的变化

- ・気候変動
- ・環境基準の上昇
- ・取引先の環境対応ニーズの高まり
- ・情報開示の強化を求める動き

地政学

- ・関税・貿易制限
- ・資源の寡占化、枯渇
- 再生可能原料への転換

経済

- ・エネルギー価格高騰
- ・得意先競争力の変動
- ・安価な海外品の流入
- ・代替製品出現・コモディティ化

社会

- ・人手不足
- ・物価の上昇

環境意識の高まり

グローバル トレンド

- ・パリ協定締結による脱炭素化の加速
- ・サーキュラーエコノミーの拡大

電子部品需要拡大

- ・電子部品を使用した製品の需要増加
- ・電子部品、機能材料の技術革新や用途拡大による部品市場の成長

EVシフト

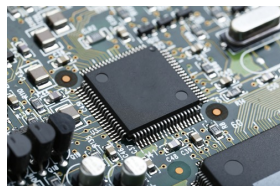
- ・EV化で電池市場の持続的成長
- ・リサイクル材料の使用率法制化
- ・高性能・大容量電池ニーズ拡大

多様な産業に貢献する
製品の提供



既存薬品事業

デバイスの高性能化、省電力化、
小型化への対応



電池事業

便利・安全な暮らしに役立つ
電池材料の開発、生産



金属リサイクル事業

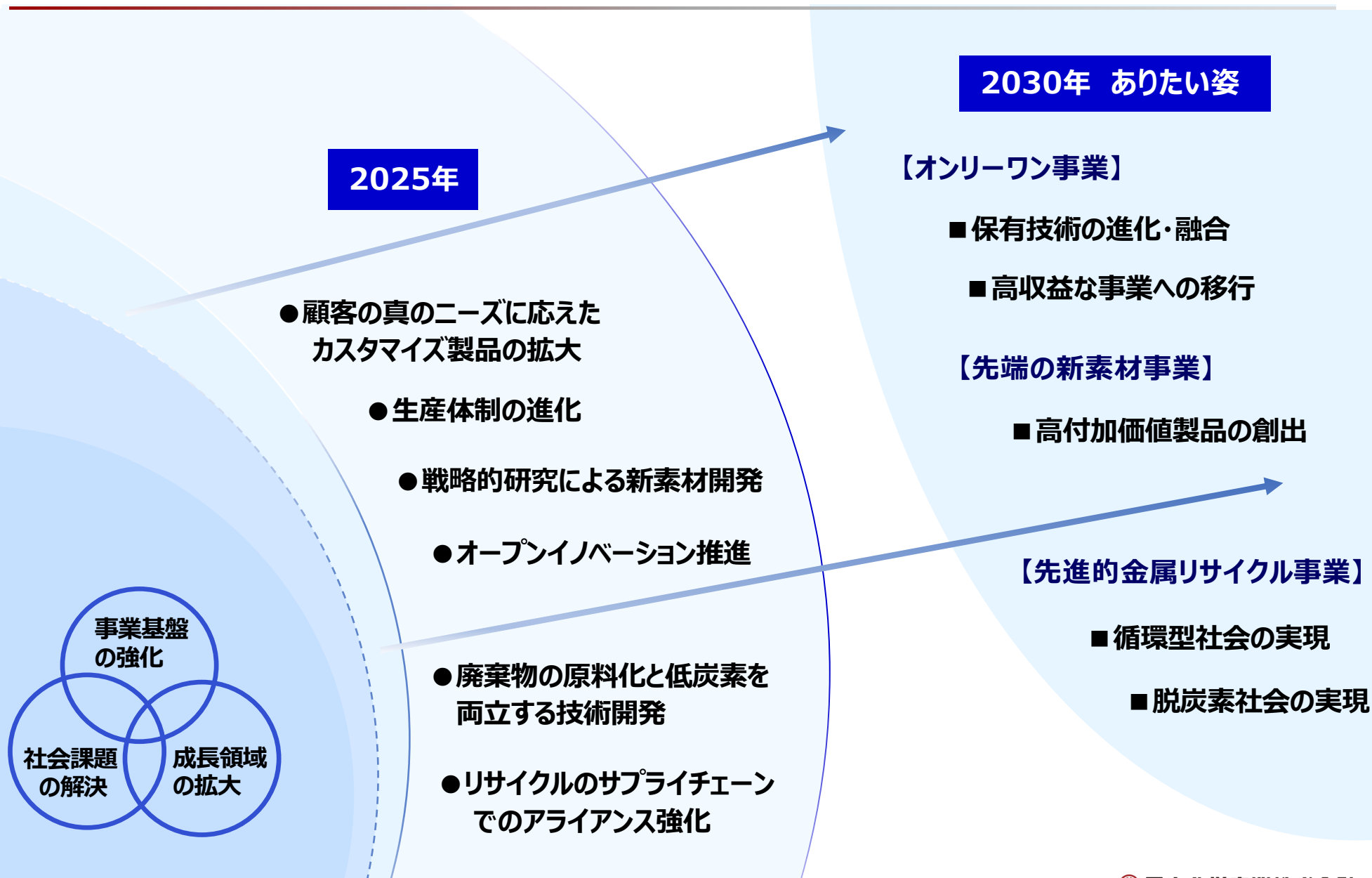
循環型社会に向けた、
環境にやさしい金属資源の活用



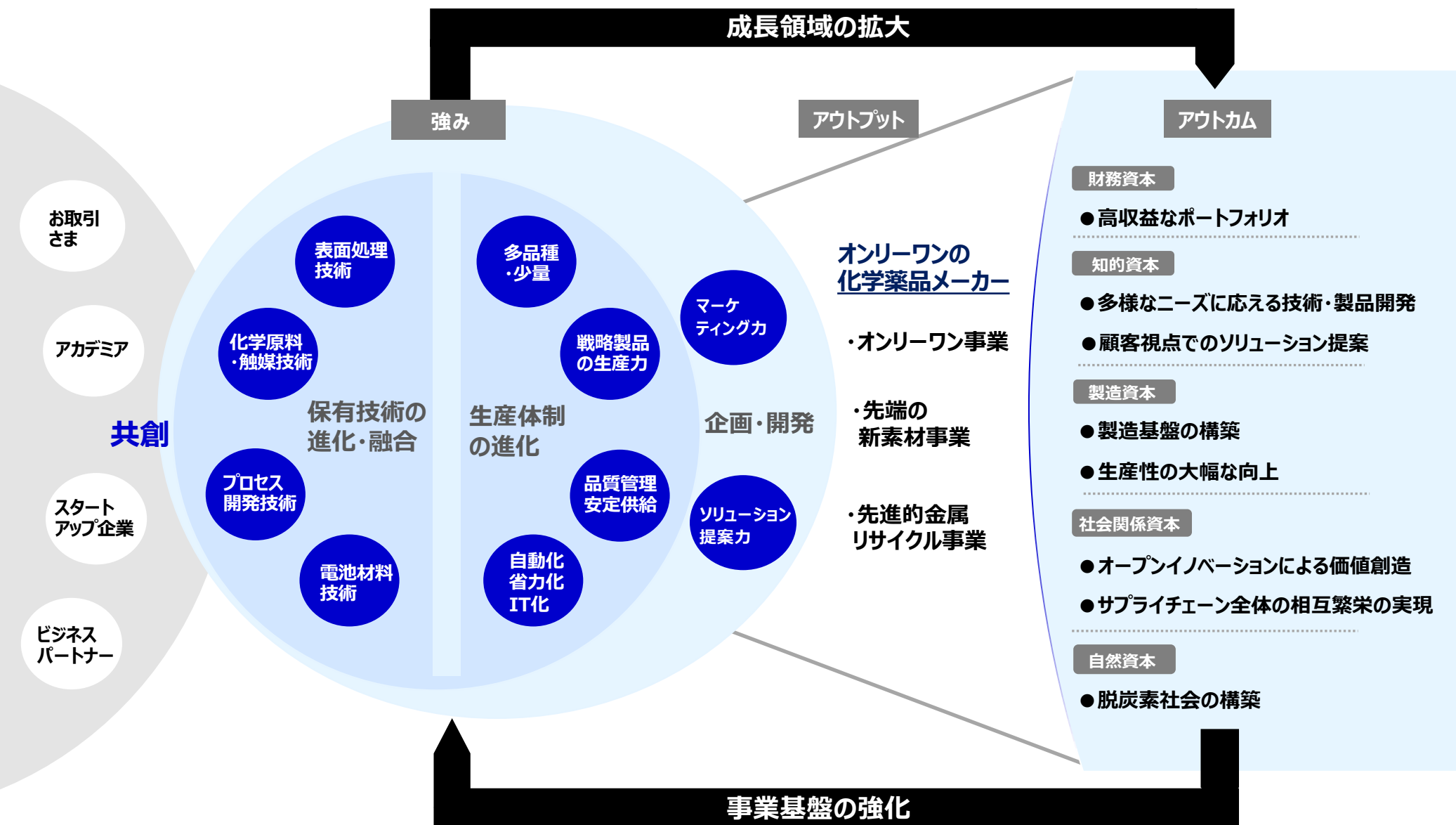
新素材事業



薬品事業の 強みを活かした 事業領域



薬品事業 価値創造モデル



薬品事業 金属リサイクル ビジネス

金属資源循環の進化

集荷

- 原料となる廃棄物回収のサプライチェーン強化

精製

- 回収金属の種類拡大
- 多品種の精製処理工程
- 高純度精製

製造

- リサイクル原料由来の製品開発

脱炭素化の強化

- 製造工程の低炭素化技術開発

- 廃棄物からの原料化によるCO₂削減

- 戦略製品におけるCO₂削減

社会課題の解決

【循環型社会の実現】

- ・廃棄物の再原料化
- ・リサイクル金属の価値向上



【脱炭素社会の構築】

- ・自社から排出するGHG排出量低減
- ・サプライチェーン全体での脱炭素化の実現

企業価値の向上

リサイクル垂直統合モデル

長年にわたり廃棄物を原料化・製品化し、産業界に供給の実績

多様な協業先からの集荷

分離・精製
高純度化

分析
/評価

多金属多品種
製品群への活用

原料化

製品化

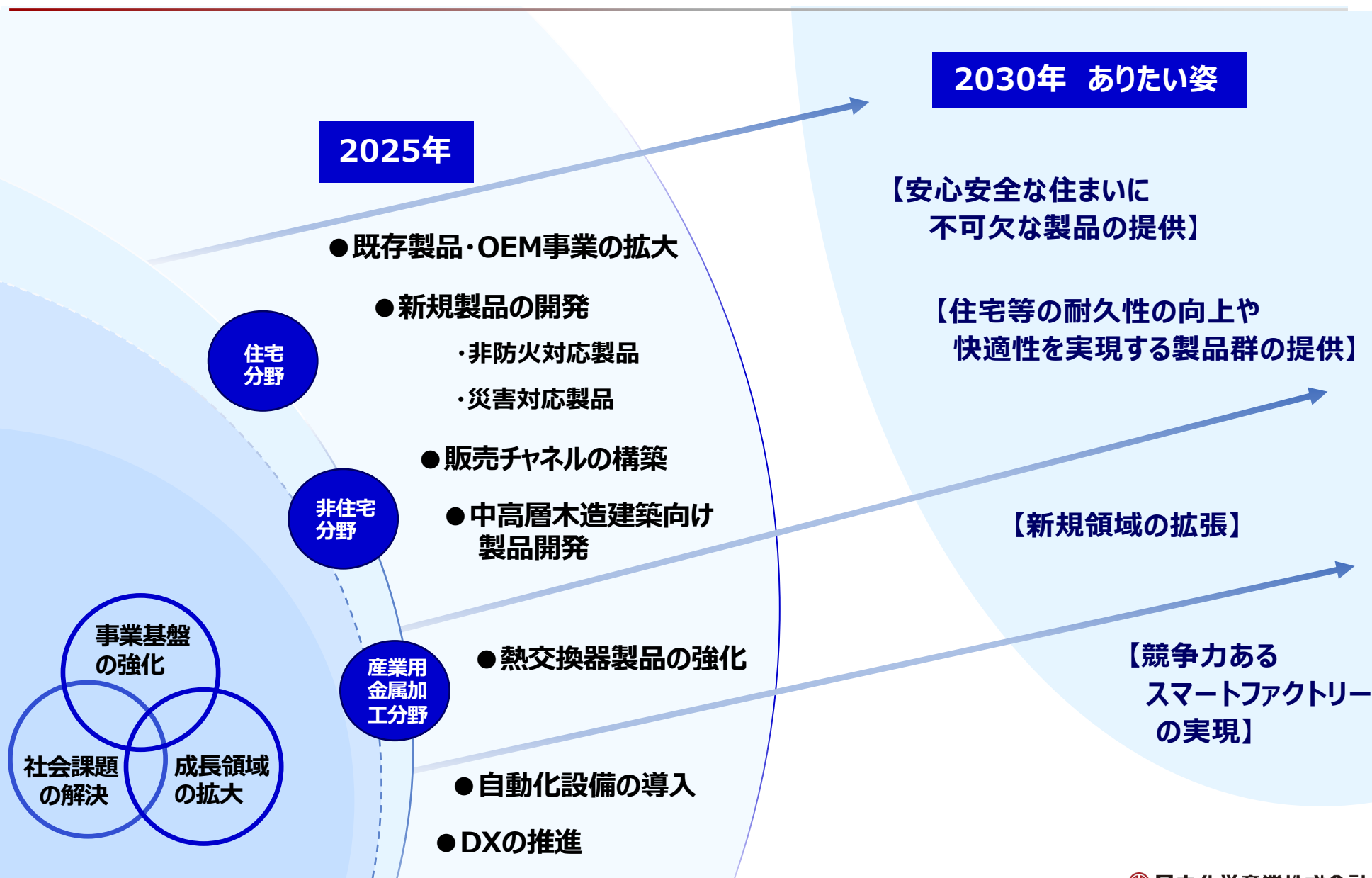


ありたい姿

独自の金属加工技術をさらに発展させ、**住宅建材・産業用金属加工分野**において、**新たな価値を提供**することで、**サステナブルな社会の実現に貢献**します。

当社ならではの強み

- 独自の金属成型加工技術を生かして、「防火」「通気」「防水」を実現する、建築関連製品を長年にわたって提供してきた**実績**。
- ハウスメーカーなど、対象業界のニーズに応じて、より安全で快適な暮らしを実現する製品を開発することで、社会のサステナビリティに貢献する**製品開発力**。



経営基盤の強化

分類	主要課題	取り組み
E (環境)	気候変動への対応	脱炭素社会に向けた成長の拡大 脱炭素経営の推進 将来を担う事業の推進 お客様のCO2排出削減の期待に応える製品・サービスの提供 技術開発 製造技術の開発 新素材の開発 事業活動による排出量削減 省エネ設備の導入 再生可能エネルギーの使用 太陽光パネル導入 事例 福島第一工場（双葉郡広野町）
S (社会)	人的資本の強化	中長期的な企業価値向上のため人材施策 人材育成 社員と会社の成長 働きがい高める環境づくり モチベーションを高めるエンゲージメント向上 DEI推進 多様な社員の活躍 仕事と生活の両立支援 柔軟な働き方 キャリア支援の研修 専門知識の獲得 人材アロケーション 多様な人材獲得 経営戦略を実現する人材戦略 人材が経営戦略を実現する 中期経営計画

経営基盤の強化

分類	主要課題	取り組み
G (ガバナンス)	積極的な 情報開示	<u>ステークホルダー・エンゲージメントの推進</u> 企業価値の向上 ← 日本化学産業らしさを伝達 顧客、株主投資家、サプライヤー、地域社会、求職者、行政機関、業界団体、アカデミア 情報開示の強化 対話の推進 ホームページなどによる 広報活動の強化 コンテンツの拡充 (非財務、財務情報) 英文開示の拡大による 発信力強化
	コーポレート ガバナンス の適切な 構築・運営	<u>内部管理体制の強化</u> リスクの低減 業務プロセス の改善 ← 業務の有効性、IT統制、会計の信頼性、コンプライアンス <u>取締役会実効性の強化</u> 実効性評価に基づく対応 取締役会の議論 の更なる充実 ステークホルダーへの説明責任 ← 実効性の高い意思決定、実効性の高い監督 意思決定能力 執行監督能力
	情報インフラ の強化	<u>ITを活用した管理機能強化</u> 生産性向上 ← 基幹システム刷新、RPA導入 売上拡大支援 ← 商談管理ツールの強化、マーケティング・オートメーションの活用、ビジネスインテリジェンスによる分析強化 <u>情報セキュリティの強化</u> 情報セキュリティ強化



金属の可能性を追求し、未来を拓く。



**本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。**